

第3学年 社会科（公民的分野）学習指導案

日 時 平成26年10月22日（水）5校時
場 所 盛岡市立上田中学校 南校舎2階3年1組教室
生 徒 盛岡市立上田中学校3年1組 男14名 女17名 計31名
指導者 盛岡市立上田中学校 教諭 佐々木 巳樹

1 単元名 第4章 わたしたちの暮らしと経済 1節 暮らしと経済（東京書籍）

2 単元について

（1）本単元の位置づけと教材について

本単元は、中学校学習指導要領、第2章公民的分野の2、内容（2）のア「身近な消費生活を中心に経済活動の意義を理解させるとともに、価格の働きに着目させて市場経済の基本的な考え方について理解させる。」及び、イ「国民の生活と福祉の向上を図るために、社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、社会保障の充実、消費者の保護など、市場の働きにゆだねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たしている役割について考えさせる。」ことをねらいとしている。消費者の利益の擁護及び増進について、消費者の権利の尊重及びその自立の支援などのために、国や地方公共団体は消費者政策を推進する役割を担っている。一方、企業は消費者の安全や、消費者との取引における公正さを確保するなどの責務や、国や地方公共団体の政策に協力する責任がある。消費者をめぐるこれらの関係性や責任を、消費者として実際に消費生活を行っている中学生が理解することは重要である。また、消費者も自らの利益の擁護及び増進のために自立した消費者となるよう努めなければならないことや、どのような消費者行政が行われているのかについて考えを深めることが必要である。

（2）生徒の実態

生徒は今までの消費生活の経験をもとに、経済活動が自分たちの社会生活にかかわりをもってしていることを感覚的には捉えている。しかし、市場経済の基本的な考え方や市場経済に対する国や地方公共団体が果たしている役割については、理由や根拠をもとにして説明できる論理的な理解には至っていない。また、企業努力による新製品の低価格化、情報化の進展に伴うオンラインショッピングの拡大など、時代の変化とともに、中学生にとって消費生活がより身近なものとして日常生活に関わっているが、そこから発生している消費者問題の存在や消費者問題に対する解決策については理解していない。

（3）指導観

現代社会で頻発している消費者問題を通して、安心して安全な消費生活を送るためにも、日常生活における様々な契約から消費者主権の必要性、消費者問題に対する行政の対応に気付かせることで、消費者への権利と保護だけでなく、消費者が負っている責任の自覚のためにも自立した消費者になることが求められていることを理解させたい。また、消費生活の背景にある流通の役割を理解することで、暮らしと経済の関係性に対する理解を深めさせたい。そして、様々な経済的事象や諸課題は、現在の自分の生活だけでなく将来の生活と密接に関わっていることにも気付かせ、経済に対する興味や関心を高めさせたい。

3 単元の指導計画

（1）目標

具体的な事例から、消費生活のあり方や自立、消費者の権利の重要性を考え、消費者を守り、消費者の自立を支援する消費者行政の意義について理解することができる。また、身近な消費生活をもとに、暮らしと経済の関係に気づくとともに、その背景にある流通の役割についてとらえることができる。

(2) 評価規準

観点	社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象への 知識・理解
単元の 評価 規準	消費生活や流通のしくみを通して、くらしと経済の関係について関心を持ち、意欲的に追究している。	消費生活や流通に関する様々な事例をもとに、経済活動における選択や、消費者の権利と自立、流通の役割について多面的・多角的に考え、その過程や結果を適切に表現している。	消費生活のしくみや流通の合理化のための取り組みについて、具体的な事例を収集し、図表などにまとめている。	身近な消費生活をもとに、自分たちの生活と経済との関連に気付くとともに、経済活動の意義について理解している。

(3) 知識の構造図

<p>【学習指導要領の内容との関連】 内容(2) 私たちと経済 ア 市場の働きと経済 身近な消費生活を中心に経済活動の意義を理解させるとともに、価格の働きに着目させて市場経済の基本的な考え方について理解させる。 イ 国民の生活と政府の役割 国民の生活と福祉の向上を図るために、社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、社会保障の充実、消費者の保護など、市場の働きにゆだねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たしている役割について考えさせる。</p>				
<p>【中心概念】 消費者は安心して安全なより良い消費生活を送るよう努めることが求められている。消費者の権利の尊重及びその自立の支援などのために、国や地方公共団体は消費者政策を推進している。</p>				
<p>【単元の学習課題】 安心・安全でより良い消費生活を送るためにはどうすればよいか。</p>				
<p>【具体的知識】</p>				
<ul style="list-style-type: none"> ・経済とは豊かな暮らしを営むために必要なしくみ。 ・商品を購入することで暮らしに必要なものをそろえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・欲求は無限でも、収入や時間には限りがある。 ・収入と支出の活動を通して家庭を維持する。 ・将来の支出に備える。 ・計画性を持って消費生活を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者は権利とともに責任を負っている。 ・行政が消費者保護のために施策を講じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意思と判断によって商品を購入する。 ・商品の購入をめぐる問題が発生している。 ・行政が消費者保護のために施策を講じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産された商品は様々な経路で消費者に届く。 ・消費者は主に商品を小売業者から購入する。 ・流通のしくみが複雑になりすぎると効率を損ねる。 ・商業には原材料や商品などのものの流れがともなう。
<p>【基本用語等】</p>				
<ul style="list-style-type: none"> ・消費生活 ・経済の概念 	<ul style="list-style-type: none"> ・貯蓄 ・消費支出 ・所得 ・家計 ・商品の選択 	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者基本法 ・消費者責任法 ・製造物責任法 ・消費者問題 ・消費者主権 ・自立した消費者 	<ul style="list-style-type: none"> ・商業 ・流通 ・流通の合理化 ・物流 	

(4) 展開 (全4時間)

時	ねらい	展開の概要と【言語活動】の位置づけ	評価方法と【評価規準】
1	シミュレーションを通して、経済に対する興味や関心を持ち、単元の学習課題を設定することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 資料をもとにコンビニエンスストアの出店場所を考え、発表し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 資料をもとに、より良い出店場所について、交流する。 <表現する> </div> <ul style="list-style-type: none"> 消費者は消費活動によって暮らしに必要なものを購入していることに気付く。 経済と生活の関係から、学習課題を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 【単元の学習課題】 安心・安全でより良い消費生活を送るためにはどうすればよいか。 </div>	・活動の様子やノートの記述内容から、「コンビニエンスストアの出店・経営の視点から、消費者の消費活動について関心をもつことで、経済活動への興味・関心を高めているか」を評価する。【関】
2	消費者が商品を購入する際、限られた資源をもとに選択していることを通して、消費生活のあり方について考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 消費生活では選択の原理が働いていることに気付く。 収入と支出をもとに、自分がどのような消費生活を行うだろうか考え、発表し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 収入と支出のバランスを図る必要性に気付く。 <考える> </div> <ul style="list-style-type: none"> かしい消費生活のあり方について考えをまとめる。 	・活動の様子やノートの記述内容から、「限られた所得を支出にあてる場合には、優先順位をつけなければならない必要性を述べているか」を評価する。【知】
3 (本時)	消費者行政や消費者問題を通して、安心して安全な買い物をするために、消費者が気をつけなければならない点について考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 消費者問題についての関心を深める。 消費者問題が多発している理由を調べる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 消費者相談の資料から必要な情報や事実を読み取り、交流する。 <取り出す> </div> <ul style="list-style-type: none"> 自立した消費者になるために必要なことをとらえる。 	・活動の様子やノートの記述内容から、「消費者問題が発生している理由を、様々な資料をもとに考察し、説明しているか」を評価する。【思】
4	商品の流通経路について調べることを通して、流通の役割をとらえると同時に、経済と消費生活の関連についてまとめることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 流通形態に関わる写真から、消費生活を支える流通について関心を深める。 様々な商品の流通経路について調べる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 情報や事実をもとに、流通経路を図式化してまとめる。 <表現する> </div> <ul style="list-style-type: none"> 流通のしくみがわかる資料から、合理化を図っている点を読み取る。 単元の学習課題に対してまとめる。 	・活動の様子やノートの記述内容から、「市場に集められた競りを経て店頭に並ぶ商品と、メーカーから問屋などを通して届く商品があることに気づき、表しているか」を評価する。【技】

4 本時の指導

(1) 目標

消費者行政や消費者問題を通して、安心して安全な買い物をするために、消費者が気をつけなければならない点について考えることができる。

(2) 構想

本時は評価規準の社会的な思考・判断・表現の「消費者問題が発生している理由を、様々な資料をもとに考察し、説明している。」をねらったものである。

「問題の把握」で提示する資料から読み取ることができる、「国や地方公共団体は消費者政策の推進のため、消費者基本法などの法律を制定しているにもかかわらず、依然として消費者相談センターへの相談件数が多いという矛盾点」から、本時の学習課題を「消費者問題が多発しているのはなぜか」と設定する。

「課題の追求」では、まず、学習課題に対する各自の予想を発表させ、自分の予想を比べたり、自分とは異なる視点で考えた意見にふれたりすることをねらう。次に、消費生活相談の事例から問題点を調べることで、その問題点を通して消費者の考え方や行動をとらえることで、正しい判断力を備え、自立した消費者になることが必要であることに気付かせる。

「まとめ」では、自己評価活動を行い、学習を通して、現代社会では消費者問題が多発しているという認識のもと、商品を購入することは契約することであること、そのために消費者は自覚と判断力を備えた自立した消費者となる必要があることを記述した上で、今後の消費生活を送るうえで、現在や将来の自分はどのような意識で過ごすべきかなどを記述できるようになってほしい。

(3) 評価規準

評価の観点	評価方法と評価規準	努力を要する生徒への手だて
社会的な思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none">・ノートの記事内容や発表から、「消費者問題が発生している理由を、様々な資料をもとに考察し、説明しているか」を評価する。 <p><生徒の記事例></p> <ul style="list-style-type: none">・消費者は自分の意思と判断で商品を購入しなければならない。しかし、情報が正しくなかったり、悪徳商法によってだまされたりする消費者がいることから消費者問題が発生している。	<ul style="list-style-type: none">・資料をもとにわかった消費者の考え方や行動を確かめさせて書かせる。

(4) 展開

段階	学習活動	指導上の留意点	教材・教具等
問題の把握 (10分)	1. 消費生活と契約・消費者保護の法律を知る。 2. 消費者相談件数の表から、消費者問題が多発していることに気付く。 3. 消費者の権利や保護のための法律があるが、消費者問題が多発していることから、本時の課題を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> 商品を購入することは契約を結ぶことであることを教え、日常生活でのさまざまな契約を紹介する。 消費者の四つの権利の考え方や消費者基本法など消費者保護の観点から様々な整備が進んでいることを教える。 国民生活センターや県民生活センターへの相談件数から、様々な問題が発生していることに気付かせる。 消費者の権利が言われ、消費者基本法などの法律が制定されているにも関わらず、契約上のトラブル等の問題も多発していることをとよりの生徒に説明させ、理解の確認をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 P111 (さまざまな契約) 資料集 P82 (消費者の四つの権利) スライド (消費者相談件数)
消費者問題が多発しているのはなぜか。			
課題の追求 (30分)	4. 学習課題について予想を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> だまされている 契約するという意識が薄い ルールを知らないから 5. 消費者問題が多発している理由を消費生活相談の事例から調べる。 6. 相談事例から自立した消費者になるために必要なことを考える。 7. 消費生活センターの資料から、より良い消費生活を行うために必要なことをとらえる。	<ul style="list-style-type: none"> 多様な考え方を共有させる。 消費生活センターに寄せられた相談事例を紹介し、契約上のトラブルにつながる問題点を追及させる。 困った際にはどうすればよいのか考えさせ、消費生活センターやクーリング・オフ制度の存在に気付かせる。 消費生活センターの資料から、追究した問題点に対する対応を確認する。 消費者主権の意味を知り、消費者として自立する必要性に気づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料 (相談事例) 資料集 P83 (クーリング・オフ制度) (相談窓口) スライド (センターからの助言資料)
まとめ (10分)	8. 学習課題をふり返り、本時のまとめを確認し、自己評価をする。	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動5～7の内容を整理し、本時のまとめと自己評価を記入させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 商品の購入をめぐり、情報が十分でなかったり、偽りだったりすることから消費者問題が発生している。自分の意志と判断で商品を購入するため、商品に関する知識や情報をもとに判断できる自立した消費者を心がけることが必要であることがわかった。 情報をうのみにして商品を購入するなど契約上のトラブルから消費者問題が発生している。困った際には相談センターやクーリング・オフ制度を活用できることがわかった。安心して安全な消費生活を送るためにも、世の中の動きに興味をもっていきたい。

(5) 板書計画

